

★日本で遺伝子組み換え作物の栽培は実現できるのか？★

～映画「WELL FED」が物語る遺伝子組み換え作物の真実～

遺伝子組み換え（GM）作物の実像に迫った映画「WELL FED」をご存じでしょうか。オランダ人が制作した西欧発のドキュメンタリー映画（2017年）です。GM作物に反対する環境団体も含め、様々な人たちの意見を紹介していますが、途上国バングラデシュの小規模農家が害虫抵抗性の組み換えナス（Btナス）を栽培して農薬使用の少ない農業を実現させている様子を克明にレポートしています。

この映画を製作した監督のカーステン氏と科学ジャーナリストのヘデ氏の2人をオランダから招き、9月14日に上映会とパネルディスカッションを行います。

遺伝子組み換え（GM）作物は1996年に米国で初めて栽培されて以来、日本でも大量のGM作物（主にダイズ、なたね、トウモロコシ、ワタ）を輸入し、食用油の原料や家畜の飼料などに使っていますが、GM作物への理解は十分に進んでいないのが実情です。この上映会を通じて改めてGM作物の意義と課題を考えます。

・・・・・・・・開催概要・・・・・・・・

【テーマ】「日本で遺伝子組み換え作物の栽培は実現できるのか？」

【日時】2022年9月14日（水）14時～16時半

【場所】スペース汐留（東京都港区東新橋1-1-16 汐留FSビル3F、電話03・6226・6512（JR「新橋駅」汐留口、東京メトロ銀座線「新橋駅」2番出口、都営浅草線「新橋駅」汐留1番出口）

【主催】「遺伝子組み換え作物に関する映画実行委員会」

【プログラム】司会進行 小島正美（元毎日新聞編集委員）

1 映画「WELL FED」の上映（約50分）

2 パネルディスカッション（進行役：小島正美）

パネリスト：カーステン・ドゥ・フルーフト氏（オランダ、映画監督）

：ヘデ・ブルスマー氏（オランダ、科学ジャーナリスト）

：徳本修一氏（鳥取市で大規模農場を運営する生産者）

：高原学氏（農研機構・企画戦略本部新技術対策課課長）

※同時通訳と逐次通訳の2人の通訳があり、英語が苦手な人も理解できます。

【参加費と定員】無料、100人

【懇親会】上映会の終了後、近くの飲食店で懇親会を行います。参加費は1人1000円。

【参加】参加希望者は件名を「東京上映会参加」とし、名前と所属、懇親会の参加の有無を記し、9月10日までに小島（080-4864-6080）のeメール：rendaco-1225@ozzio.jpへお申し込みください。



《パネリストの略歴》

■徳本修一（とくもと・しゅういち）氏＝トゥリーアンドノーフ株式会社代表取締役。

2012年、異業種から農業へ参入。鳥取市の80haの農地で水稻、飼料トウモロコシ、小豆を生産。ITを積極活用し、1000ha以上の集積を目指す。2020年3月YouTubeチャンネル『農業法人トゥリーアンドノーフチャンネル』を立ち上げ、プロ農家目線のリアルな情報を発信。月間50万再生を超える農業メディアに成長。歌うファーマーとしても知られている。

■高原学（たかはら・まなぶ）氏＝農研機構（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）企画戦略本部新技術対策課課長。東京大大学院（植物学）博士課程修了。2002年、農研機構に入り、飼料作物の有用遺伝子の単離・改変に関する研究を担当。その後、ゲノム編集などの調査・研究企画、コミュニケーションや ELSI（倫理的・法的・社会的課題、Ethical, Legal and Social Issues）にも取り組む。

■映画「WELL FED」はどんな映画か

映画は、組み換え作物に否定的なイメージを抱くオランダ人のカーステンさん（Karsten de Vreugd）と「組み換え作物の利点」をよく知るオランダ人の科学ジャーナリストのヘデさん（Hidde Boersma）が互いに議論しながら、組み換え作物の真相に迫っていく展開で進む。

カーステンさんは環境団体の「グリーンピース」や生物多様性の保全を重視するオランダの銀行幹部などに意見を聞くが、「大企業依存」「遺伝子の操作」「長期の影響が不明」などネガティブなイメージが強いことを知る。これに対し、ヘデさんは「遺伝子組み換え技術は持続可能な農業を可能にするテクノロジーのひとつだ」と解説する。だが、カーステンさんは納得がいかない。取材の中で貧



写真1 Btナスを栽培する農家（左）。中央はヘデさん、右端はカーステンさん。

しい農家のために開発されたという組み換えナス（害虫抵抗性 Bt ナス）のことを知り、バングラデシュへ飛んだ。組み換えナスを栽培する農家（写真1）は「組み換えナスだと殺虫剤が不要になり、収入が増えた」と明かす。組み換え種子は国の研究所からタダで譲り受けたもので、しかも種子は自家採種できる。カーステンさんは、ようやく組み換え作物の実像の一端を知る。このあと、再びグリーンピースの活動家に会い、激論を交わす。こうした知的な旅の軌跡をカーステンさんはドキュメンタリー映画に仕上げた。

「Well Fed」は直訳すれば、「十分に食事が満たされた」という意味だが、先進国の飽食の裏側に潜む途上国の実態を知ってほしいとの思いが込められている。